

県リスキリング推進企業を表彰

関東道路ら4者に栄誉



大井川知事

県と県リスキリング推進協議会は7日、県庁でリスキリング推進シンポジウムを開催した。会場とウェブであわせて約230人が参加し、リスキリングに対する認識を深めた。シンポジウムでは、表彰式や基調講演、パネルディスカッションを実施した。このうち、表彰式ではベストプラクティス賞2者とグッドプラクティス賞2者が選定され、その栄誉をたたえた。受賞者うち、建設業関連では、関東道路(筑西市)がベストプラクティス賞に輝いた。なお、自治体がリスキリン

グに取り組み企業を表彰するというのは、全国初の取り組みだという。近年、あらゆる産業にAIやデジタル化、脱炭素化の波が押し寄せている一方、さまざまな業種で慢性的な人手不足が生じており、企業への影響が懸念されている。こうした状況では、現在の社員がリスキリングによってデジタルスキルを

はじめとした新たなスキルを習得し、生産性向上や資金水準の向上などにつなげていくことが重要になるという。そこで、県では、リスキリングについての理解と意識を高め、企業が自ら進んでリスキリングに取り組めるような施策を県リスキリング推進施策パッケージとして公表。その一環として、このほどシンポジウムを開催することになった。

冒頭にあいさつに立った大井川知事はシンポジウム開催の経緯を説明した。続けて、受賞者への功績をたたえ、「本県におけるロールモデルとしてさらなる活躍を期待する。今後もさまざまな施策を展開し、本県のリスキリングを強力に推進していく」と考えを述べた。

シンポジウムの内容のうち、県リスキリング推進企業表彰は、企業人のリスキリングの推進に積極的取り組み、顕著な成果があった企業などを表彰するもの。先進事例として広く周知すること、リスキリング推進の意欲を高め、具体的な取り組みを促進することを目的とする。表彰の区分は、取り組み内容を総合的に評価し、ベストプラクティス賞とグッドプラクティス賞、奨励賞を決定していく。



武藤社長らに表彰状を授与

受賞者については、リスキリングの第一人者であるジャパン・リスキリング・イニシアチブの代表理事である藤原明氏が総評を行った。このうち、関東道路ら4者については、建設分野からソーラーパネルリサイクル分野へ戦略的に事業拡大を進めるため、専門部署を設立し、デジタル分野・グリーン分野のリスキリングを先進的に推進していることを評価。特にソーラーパネルのリサイクル

が始まるということを見越して、いち早く事業に取り組んだことについて、先進的なロールモデルになる事例だと指摘。また、業務時間内にリスキリングを推進していることや、スキル習得に係る費用の全額負担、協力企業に対するスキル習得の機会提供、スキル習得に対する評価・処遇の反映など、リスキリングが全般的に進んでいることが評価のポイントだと解説した。

このあと、基調講演として、後藤氏が「リスキリング推進の必要性」中小企業におけるリスキリング実践に向けて」と題する講演を行った。パネルディスカッションでは、ベストプラクティス賞を受賞した関東道路の武藤正浩社長とヒバラコーポレーションの小田倉久視社長がパネリストとして登壇し、それぞれが

実践してきたリスキリングの取り組みについて語り合った。

今回の受賞について武藤社長は「ソーラーパネルリサイクルプラットフォームの構築は、いままでにはない新たな仕組みで

あり、リスキリングという言葉が無い時代から取り組んできた。そして、この事業に取り組みするためにスタッフが成長してきたのがリスキリングであり、受賞に繋がった」とコメントしている。



県庁でリスキリング推進シンポジウムを開催した